

## 奄美大島から得られた鹿児島県初記録ならびに北限記録のマジリアイゴ

古橋龍星<sup>1</sup>・前川隆則<sup>2</sup>・本村浩之<sup>3</sup>

## Author &amp; Article Info

<sup>1</sup> 鹿児島大学大学院農林水産学研究所 (鹿児島市)  
k4596558@kadai.jp<sup>2</sup> 株式会社前川水産 (奄美市)<sup>3</sup> 鹿児島大学総合研究博物館 (鹿児島市)  
motomura@kaum.kagoshima-u.ac.jp (corresponding author)

Received 06 May 2021

Revised 10 May 2021

Accepted 10 May 2021

Published 10 May 2021

DOI 10.34583/ichthy.8.0\_8

Ryusei Furuhashi, Takanori Maekawa and Hiroyuki Motomura. 2021. A first Kagoshima specimen of *Siganus puellus* (Siganidae) from Amami-oshima island: the northernmost record for the species. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 8: 8–10.

## Abstract

A single specimen (274.1 mm standard length) of *Siganus puellus* (Schlegel, 1852) (Siganidae), distributed in the Indo-West Pacific, was collected from Amami-oshima island, the Amami Islands (Kagoshima Prefecture), the Ryukyu Archipelago, Japan. In Japanese waters, *S. puellus* has previously been recorded only from Okinawa Prefecture. Thus, this specimen, described herein in detail, represents the first record of *S. puellus* from Kagoshima Prefecture and also the northernmost record for the species.

アイゴ科魚類 (Siganidae) は単型科で、アイゴ属 *Siganus* Forsskål, 1775 のみで構成され、インド・太平洋から 32 有効種が認められている (Woodland, 1990; Randall and Kulbicki, 2005; Woodland and Anderson, 2014; 栗岩, 2018; Fricke et al., 2021). 本科魚類は体が側扁し、円鱗で覆われること、背鰭が 13 棘 10 軟条、臀鰭が 7 棘 9 軟条、および腹鰭が 1 棘 3 軟条 1 棘であることによって特徴付けられる (Woodland, 1990). 日本からは 12 種が知られており (島田, 2013; 栗岩, 2018), アイゴ *S. fuscescens* (Houttuyn, 1782) やアミアイゴ *S. spinus* (Linnaeus, 1758) などの一部の種は食用に利用される. 特に沖縄県では春先に接岸するアイゴ属の幼魚 (スク) が大量に漁獲され、塩漬け (スクガラス) にして食される (本村, 2015; 小枝, 2020).

2021 年 3 月に奄美大島近海から 1 個体のマジリアイゴ *S. puellus* (Schlegel, 1852) が漁獲された. 本種は国内ではこれまでに沖縄県沖縄島以南の琉球列島からの記録しか知られておらず (島田, 2013), 奄美大島から得られた本種の標本は鹿児島県からの初めての記録となると同時に本種の分布の北限を更新する記録となるため、ここに報告する.

## 材料と方法

標本の計数・計測方法は Randall and Kulbicki (2005) にしたがった. 標準体長 (standard length) は体長または SL と表記した. 体各部の計測はノギスを用いて 0.1 mm 単位まで行い、計測値は体長に対する百分率で示した. 生鮮時の色彩の記載は、奄美大島産標本 (KAUM-I. 156087) のカラー写真 (Fig. 1) に基づく. 標本の作製、登録、撮影、および固定方法は本村 (2009) に準拠した. 本報告に用いた標本は鹿児島大学総合研究博物館 (KAUM) に保管されており、上記の生鮮時の写真は同館のデータベースに登録されている.

*Siganus puellus* (Schlegel, 1852)

## マジリアイゴ

(Fig. 1)

**標本** KAUM-I. 156087, 体長 274.1 mm, 鹿児島県大島郡奄美市名瀬根瀬部沖のサンゴ礁 (奄美大島), 水深 6 m, 刺突漁, 2020 年 3 月 25 日, 義山源司郎.

**記載** 背鰭鰭条数 XIII, 10; 臀鰭鰭条数 VII, 9; 尾鰭分節軟条数 15; 尾鰭分枝軟条数 13; 胸鰭軟条数 16; 腹鰭鰭条数 I, 3, I; 縦列鱗数 145; 側線上方横列鱗数 20; 鰓耙数 4 + 15 = 19. 体各部の体長に対する割合 (%): 頭長 24.9; 背鰭前長 30.5; 臀鰭前長 55.1; 腹鰭前長 33.7; 体高 43.8; 体幅 14.1; 尾柄高 8.1; 尾柄長 9.6; 背鰭第 1 棘長 6.1; 背鰭最長棘長 12.1; 背鰭最長軟条長 15.4; 臀鰭第 1 棘長 7.9; 臀鰭最長棘長 11.8; 臀鰭最長軟条長 13.7; 尾鰭長 19.5; 尾鰭湾入部長 8.8; 胸鰭長 18.8; 腹鰭第 1 棘長 12.8; 腹鰭最

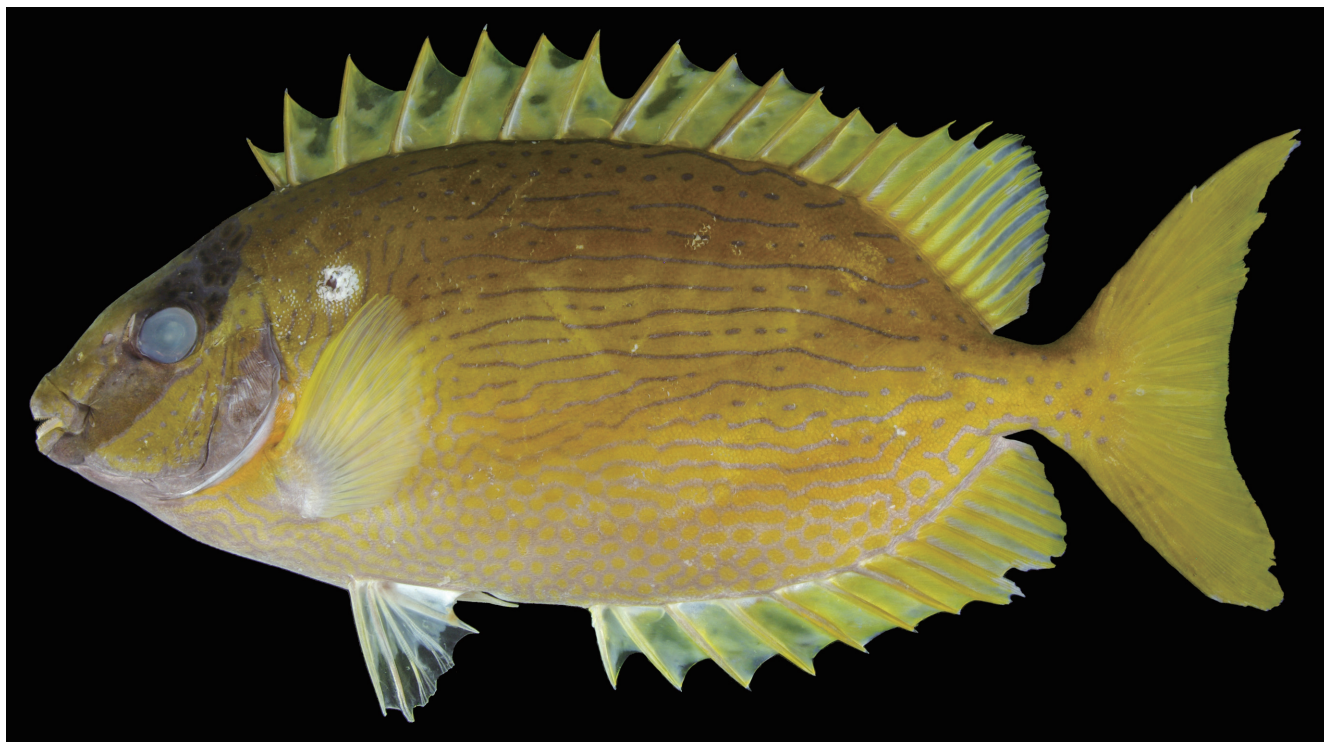


Fig. 1. Fresh specimen of *Siganus puellus* (KAUM-I. 156087, 274.1 mm SL) from Amami-oshima island, the Amami Islands, the Ryukyu Archipelago, Japan.

長軟条長 14.1；吻長 12.3；上顎長 6.7；眼窩径 6.9；両眼間隔 8.0；頬部高 9.6.

頭と体はよく側扁し、楕円形で、体長は体高の 2.3 倍。体高は臀鰭起部において最大。体は円鱗に被われ、頬部と鰓蓋上端を除く頭部と狭部、および腋部は無鱗。吻は丸みを帯び、あまり突出しない。口は小さく、両顎に細かい円錐歯が整然と 1 列に並ぶ。前鼻孔は円形で吻端と眼窩前縁の中央に位置し、後鼻孔は楕円形で前鼻孔と眼窩前縁の中央に位置する。前鼻孔と後鼻孔を結んだ直線は眼の前方を通る。眼は円形で、側中線より上方に位置する。前鰓蓋骨後縁と主鰓蓋骨後縁は円滑。鰓孔上端は眼中央の後方から始まり、眼中央の直下で終わる。背鰭は 1 基で基底が長く、背鰭起部は主鰓蓋骨後縁直上の直後にある。背鰭棘部の鰭膜は前方でよく切れ込み、後方ほど小さくなる。背鰭棘部と軟条部の上に大きな欠刻はない。背鰭棘は第 8 棘、背鰭軟条は第 3 軟条が最長。臀鰭起部は背鰭第 8 棘直下とほぼ同位で、臀鰭基底後端は背鰭基底後端直下とほぼ同位。臀鰭棘は第 3 棘、臀鰭軟条は第 3 軟条が最長。尾鰭後縁は緩やかな弧を描き湾入する。胸鰭基底上端は下端より前方に位置し、主鰓蓋骨後端直下と同位。胸鰭後縁は丸い。腹鰭起部は背鰭第 3 棘直下とほぼ同位で、たまた腹鰭の後端は肛門を越える。腹鰭は第 1 軟条が最長。腹鰭第 2 棘に腹縁と繋がる鰭膜がある。肛門は円形で腹鰭起部と臀鰭起部の中間に位置する。

**色彩** 生鮮時の色彩 (Fig. 1) — 体は一様に黄色で、体側上部は褐色みがかかる。体側には破線または波状の青みがかかった暗色縦線が多数あり、体側前部ではやや斜めの横線

となる。体側下部には青みがかかった淡色の網目模様が形成される。頭部は暗い黄色で、下顎から眼を通り、後頭部まで続く幅広い暗色斜帯がある。斜帯の眼上後方部には薄く不明瞭な黄色で縁取られた黒色斑が散在する。頬部には破線または波状の青色斜線が複数入り、鰓蓋部と頭部腹面は灰色を呈する。背鰭、臀鰭、尾鰭、および胸鰭は明るい黄色を呈し、尾鰭以外の鰭膜はやや半透明。胸鰭の上部は黄色みが強く、下部ほど白色に近い。腹鰭は白色半透明で、薄く黄色みがかかる。

**分布** ココス諸島からキリバス共和国、南日本からオーストラリア北部にかけての東インド洋と太平洋に広く分布する (Woodland, 1990)。国内では沖縄諸島 (沖縄島)、慶良間諸島 (渡嘉敷島)、宮古諸島 (宮古島)、および八重山諸島 (石垣島・西表島) から記録されていたが (松原, 1955; 山下, 1997; 島田, 2013; 田中ほか, 2020)、本研究により新たに奄美群島 (奄美大島) から本種が記録された。

**備考** 奄美大島産の標本は、体高が低く、体長が体高の 2.3 倍であること、吻が著しく突出しないこと、前鼻孔と後鼻孔を結ぶ直線が眼の前方を通ること、腹鰭基底前方から胸部が被鱗すること、背鰭棘部と軟条部の上に欠刻がないこと、下顎から眼を通る顕著な暗色斜帯があること、体側に波状の縦線があることなどが Woodland (1990) や島田 (2013) が示したマジリアイゴ *Siganus puellus* の特徴に一致したため本種に同定された。

本種の分布記録は「分布」の項目で述べた通りであり、国内では沖縄県からの記録しか知られておらず、奄美大島

の魚類相を網羅的に調査した Nakae et al. (2018) や奄美群島のアイゴ科魚類を報告した栗岩 (2019) にも記録されていない。したがって、本研究は奄美大島における本種の初めての記録となる。また、これまでの本種の分布の北限は沖縄島であり、奄美大島産の標本は本種の分布の北限を約 140 km 更新した記録となる。

## 謝 辞

本報告を取りまとめるにあたり、鹿児島大学総合研究博物館魚類分類学研究室の学生とボランティアのみなさまには、標本の作製および登録作業においてご協力いただいた。以上の方々に謹んで感謝の意を表す。本研究は鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島県産魚類の多様性調査プロジェクト」の一環として行われた。本研究の一部は公益財団法人日本海事科学振興財団「海の学びミュージアムサポート」、JSPS 科研費 (20H03311・21H03651)、JSPS 研究拠点形成事業—B アジア・アフリカ学術基盤形成型 (CREPSUM JPJSCCB20200009)、および文部科学省機能強化費「世界自然遺産候補地・奄美群島におけるグローバル教育研究拠点形成」の援助を受けた。

## 引用文献

Fricke, R., W. N. Eschmeyer and R. van der Laan (eds.). 2021. Eschmeyer's catalog of fishes: genera, species, references. (<http://researcharchive.calacademy.org/research/ichthyology/catalog/fishcatmain.asp>) (5 May 2021).

小枝圭太. 2020. アイゴ科, pp. 481–482. 小枝圭太・畑 晴陵・山田守彦・本村浩之 (編) 大隅市場魚類図鑑. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. ([https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/2020\\_11\\_OsumiFishes.pdf](https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/2020_11_OsumiFishes.pdf))

栗岩 薫. 2018. アイゴ科, pp. 434–435. 中坊徹次 (編) 小学館の図鑑 Z 日本魚類館. 小学館, 東京.

栗岩 薫. 2019. アイゴ科, pp. 379–381. 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典 (編) 奄美群島の魚類図鑑. 南日本新聞開発センター, 鹿児島.

松原喜代松. 1955. 魚類の形態と検索. Part II. 石崎書店, 東京. v + 791–1605 pp.

本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp. (<https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/FishCollectionManual.pdf>)

本村浩之. 2015. 刺毒魚の分類と生態, pp. 195–217. 松浦啓一・長島裕二 (編) 毒魚の自然史 毒の謎を追う. 北海道大学出版会, 札幌.

Nakae, M., H. Motomura, K. Hagiwara, H. Senou, K. Koeda, T. Yoshida, S. Tashiro, B. Jeong, H. Hata, Y. Fukui, K. Fujiwara, T. Yamakawa, M. Aizawa, G. Shinohara and K. Matsuura. 2018. An annotated checklist of fishes of Amami-oshima Island, the Ryukyu Islands, Japan. *Memoirs of the National Museum of Nature and Science*, Tokyo, 52: 205–361. (<https://www.kahaku.go.jp/research/researcher/papers/290248.pdf>)

Randall, J. E. and M. Kulbicki. 2005. *Siganus woodlandi*, a new species of rabbitfish (Siganidae) from New Caledonia. *Cybium*, 29: 185–189. (<http://sfi-cybium.fr/en/node/1320>)

島田和彦. 2013. アイゴ科, pp. 1613–1616, 2212–2215. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.

田中翔太・下光利明・瀬能 宏・宮崎佑介. 2020. 慶良間諸島渡嘉敷島渡嘉志久湾の魚類相: 144 種の追加記録. 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学), 49: 107–118. ([https://www.jstage.jst.go.jp/article/bkpmnh/2020/49/2020\\_7/\\_pdf-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/bkpmnh/2020/49/2020_7/_pdf-char/ja))

Woodland, D. J. 1990. Revision of the fish family Siganidae with descriptions of two new species and comments on distribution and biology. *Indo-Pacific Fishes*, 19: 1–136, pls. 1–11.

Woodland, D. J. and R. C. Anderson. 2014. Description of a new species of rabbitfish (Perciformes: Siganidae) from southern India, Sri Lanka and the Maldives. *Zootaxa*, 3811: 129–136.

山下慎吾. 1997. アイゴ科, pp. 632–637. 岡村 収・尼岡邦夫 (編) 山溪カラー名鑑 日本の海水魚. 山と溪谷社, 東京.